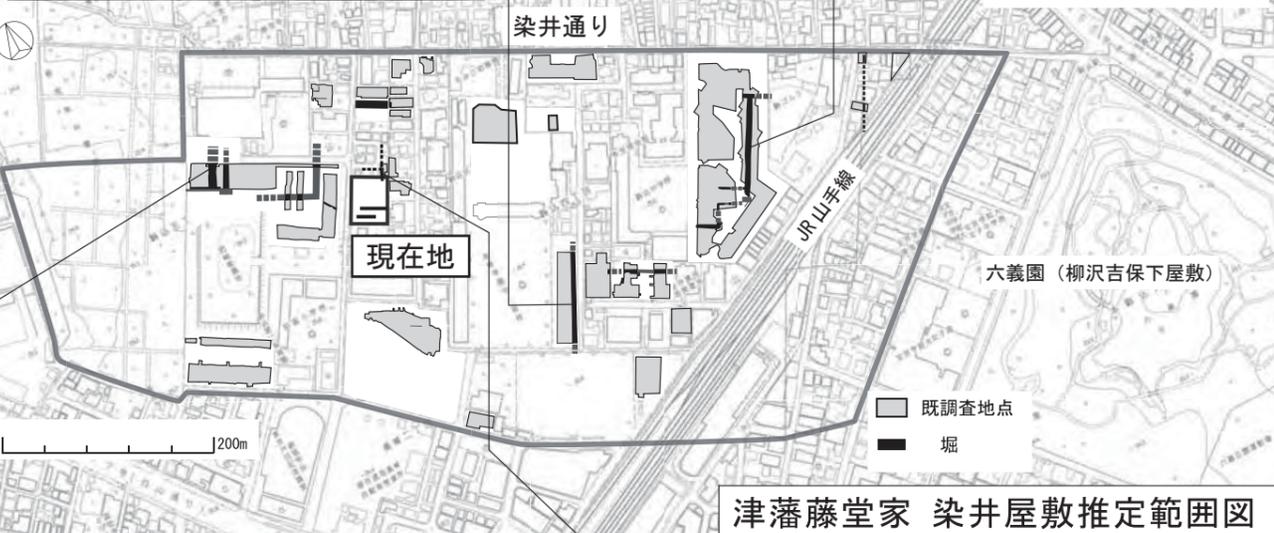




幅 5.7 m、深さ 2.1 m
プラウド駒込地区



幅 6 m、深さ 2 m 三菱重工業染井アパート地区



幅 2.7 m、深さ 1.2 m 駒込 4-15-5 地

豊島区教育委員会文化財係

2009年10月10日

この遺跡見学会は三菱地所株式会社のご協力により開催いたしました。

染井遺跡

三菱地所駒込四丁目第二マンション地区

遺跡見学会資料

染井遺跡・三菱地所駒込四丁目第二マンション地区（駒込四丁目14番9号他）は、2009年8月17日から発掘調査を行っています。発掘調査では、江戸時代の遺構が主に発見されています。

江戸時代、現在の豊島区駒込四丁目から五丁目と、巣鴨二丁目の北側の一部にかけての染井通りの南側には、合わせて約68,000坪の敷地を持つ津藩藤堂家の下屋敷と抱屋敷（通称「染井屋敷」）が広がっていました。この「染井屋敷」は、明暦の大火の後の、今からおよそ350年前の1658（万治元）年に成立しました。なお、津藩藤堂家は高虎を初代藩主とし、32万石の所領をもつ外様大名です。

今回発掘調査を行っている場所は、表門を構えていた染井通りから離れた、屋敷地の裏側にあたります。



江戸切絵図 染井王子巣鴨辺絵図（尾張屋板） 1854（嘉永7）年（部分）



大型の柱穴列。約 20 m にわたり 160cm ほどの間隔で並んでおり、塀などと考えられます。



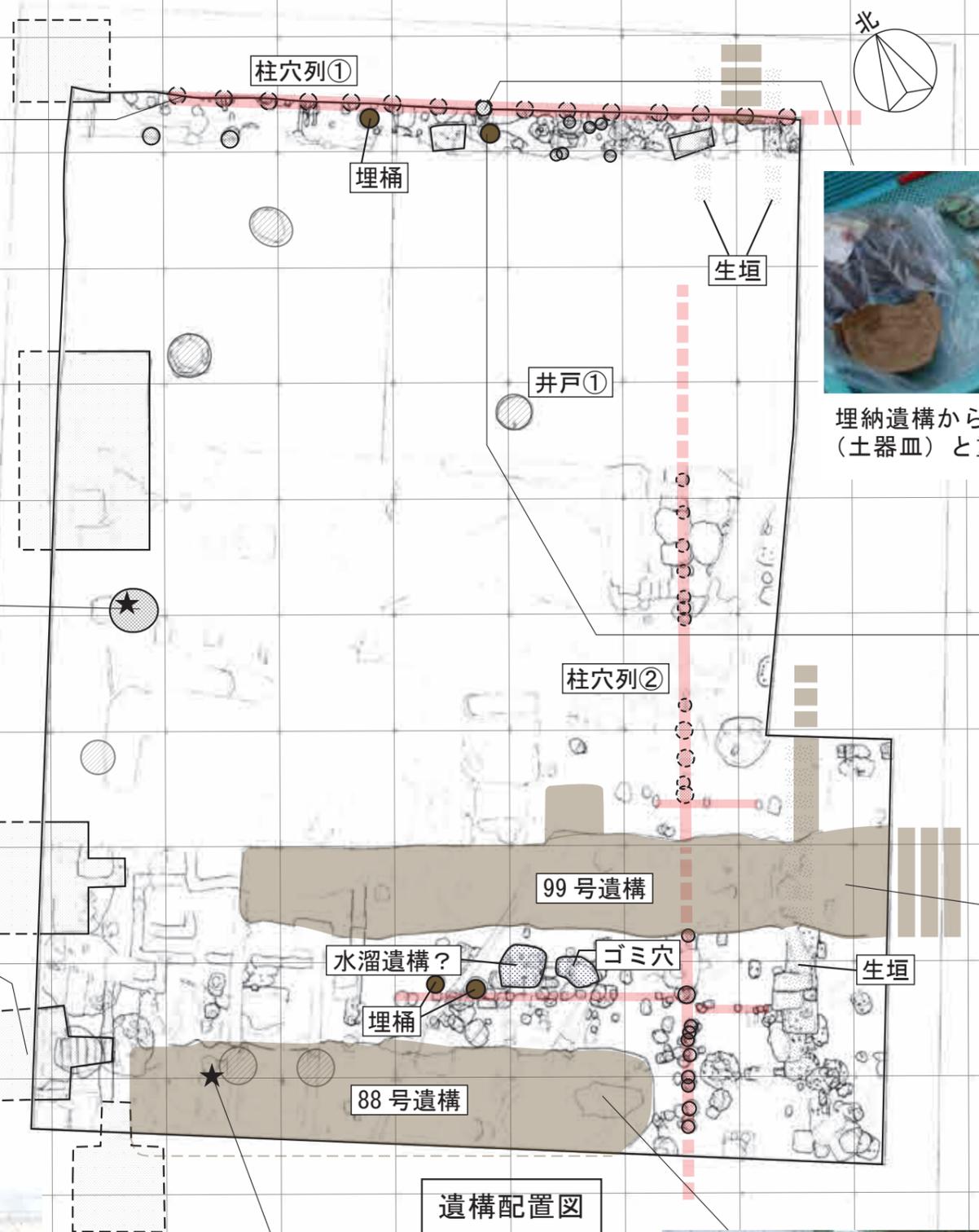
石製の義歯が出土した状況。黒っぽい石質であるのが特徴です。この他にも、完形の徳利や灯火皿などが数枚見つかりました。



地下室。手前には入口である階段が、室内には棚状の窪み（左奥）があります。



調査区南側。2 条の堀が発見されました。南東から撮影。



埋納遺構から出土したかわらけ（土器皿）と重なりあった銭



調査区北側の発掘調査風景



井戸①。上：遺物が棄てられている状況。下：井戸の断面。水が湧き出ています。



埋甕の検出状況



88号遺構出土の伊賀焼土瓶ほか



堀（88号遺構）の調査。手前で狭い範囲に集中して陶磁器や瓦が出土しています。



堀（99号遺構）に廃棄された大量の瓦